



## コロナ禍の吹上小

校長 荻野 浩

大寒を過ぎ、一年の内でも最も寒い時期を迎えました。

通勤途中で見える車の外気温計も、 $-3^{\circ}\text{C}$ や $-4^{\circ}\text{C}$ を記録する日も多く、冬の厳しさを感じています。

令和元年の冬から始まった「新型コロナウイルス感染症の拡大」は、丸2年を過ぎても一向に収束する気配もなく、新たな変異株が全国で蔓延し続けています。

「新型コロナウイルス感染症」という言葉が広まり始めた頃、ここまで長期にわたり、私たちの生活に影響するとは考えていませんでした。世界中のウイルス研究機関や医療機関・医療従事者のみなさんの働きや、日々の取組により、何とかもちこたえている状態ですが、最近では、必要以上に恐れたり、悲観したりするだけでなく、この病気を正しく恐れ、負けない強い気持ちで前を向いて進んでいくしかないと考えようになりました。だからこそ、私たちが、自分でできること・やるべきことを、正確に継続して取り組むことが、一日も早い「安全な日常」を取り戻すことに繋がると考えています。

保護者・地域の皆様におかれましても、これまで同様、安心・安全で健康な生活・日常のために、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今月号では、コロナ禍、本校の学校生活や教育活動の一端をお知らせします。

### 【マスク・換気】

大原則は、日常的なマスクの着用と手洗い、活動前後の手指消毒、加えて生活環境下での換気です。

中でもマスクの重要性は、子どもたちにも十分理解されています。コロナ禍以前は、必要な時だけ着けていたマスクですが、今では、マスクを着けていない時のほうが違和感を感じるようになりました。子どもたちも、登校から下校まで、一部の時間（給食等）を除いては、口と鼻を覆う正しいマスクの着用が心掛けて、生活しています。

また、室内に空気を留めておくことは、感染リスクが高まることから、寒い冬ではありますが、空気の通り道を確認し、室内の空気が流れるようにしています。（乾燥防止の加湿器もフル稼働中です）

### 【給食】

次にお伝えするのは、給食の時間です。給食時間は、子どもたちにとって、好きな話題を出したり、給食を美味しく食べたりできる大好きな時間です。しかし今は、飛沫による感染防止のため「黙食」に取り組み、どの学級でも同じ（黒板）方向を向きながら、話すことなく黙々と食べています。コロナ禍前の給食時間、学校のあちらこちらから聞こえていた、子どもたちの笑い声や昼の放送に一喜一憂する声は、どこからも聞こえてきません。初めは異様な雰囲気と感じましたが、今では当たり前になっています。一日も早く、以前のような「楽しい給食時間」に戻ることを切に願っている今日この頃です。

### 【全校朝会】

三蜜を避けるため、毎月行っている体育館での全校朝会・学期の節目である始業式・終業式は、放送（PCを活用したオンラインでも）で行っています。話をする側としては、子どもたちの反応や表情を確認しながら進めていきましたが、一方通行での話はとても難しいものです。こんなにも、顔を見合わせる活動が大事で、楽しいものかということに改めて感じさせられました。私の家で同じように、家族の会話が、一方通行（スマホなど）でのやり取りだけになったらと思うと、背中が寒くなります。

子どもたちは、制限された生活や環境の中でも、約束やルールを守り、感染予防に努めながら毎日頑張っています。これは吹上小だけの事ではなく、全国どこでも同じです。2/3（木）は節分。「新型コロナウイルス鬼」を退治して、たくさんの笑い声の聞こえる吹上小に戻りたいと願っています。